2022 いちご一会とちぎ国体 第5日

成年男子・少年男女3位

天皇杯競技得点は2位

国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」第5日は5日、栃木県TKCいちごアリーナなどで行われ、高知県勢は卓球の成年男子、少年男子、少年女子が、いずれも準決勝で敗れて3位となった。同競技での天皇杯得点は59・5点の2位だった。

レスリングの少年男子グレコローマン55キロ級の徳原誠馬（高知東高）も準決勝で敗れて3位入賞。

特別競技の高校野球硬式決勝で大阪桐蔭が聖光学院（福島）を5―1で下し、4年ぶり4度目の優勝を果たした。昨秋の明治神宮大会、今春の選抜大会を含め「3冠」となった。

卓球

（TKCいちごアリーナ）

▽成年男子準決勝

山口 3―1 鹿児島
愛知 3―1 高知

田中 2
5―11 11―7 11―11 9―11
11―7 11―11 7―11
3 浜田

篠塚 3
11―9 11―11 9―9
7―11 9―11
1 渡辺

谷垣 3
11―5 11―7 11―4
8―11 9―11 11―2
2 西

篠塚 3
14―2 11―9 11―9
12―11 6―11 4―11
2 浜田

▽決勝

愛知 3―0 山口
（愛知は6年ぶり3度目の優勝）

▽成年女子準決勝

栃木 3―0 愛媛
広島 3―0 鹿児島

▽決勝

栃木 3―2 広島
（栃木は初優勝）

▽少年男子準決勝

愛知 3―0 島根
山口 3―1 高知

飯村 3
11―11 11―8 11―7 11―6
11―4 11―11 6―11 11―11
0 加藤

三木 3
11―11 7―11 11―11 11―2
11―4 11―11 6―2
1 藤元

徳田 2
5―11 11―8 11―4
11―6 11―11 6―11
3 梅村

飯村 3
11―3 11―11 11―10
11―4 11―13 2―12
2 藤元

▽決勝

愛知 3―2 山口
（愛知は4年ぶり7度目の優勝）

▽少年女子準決勝

大阪 3―2 福岡
石川 3―2 高知

▽決勝

大阪 3―0 石川
（大阪は2大会連続18度目の優勝）

▽天皇杯得点

①愛知73②高知59・5③山口52

赤面 江田 3
11―9 11―11 9―11
5―11 11―7 11―11
2 白山

赤面 江田 3
13―11 11―7
11―6 6―11
1 青井

上沢 0
7―9 9―8
7―11 11―11
3 上沢依

赤面 江田 3
11―13 11―9
6―11 3―11
1 青井

面田 1
9―11 7―2
11―6 11―11
3 白山

「目標の4強」「次は全日本」

少年男女

ともに明徳高勢で臨み、3位に入った少年男女。男子は初戦敗退に終わった全国高校総体のリベンジが懸かっていただけに、選手は「目標にしていた4強を達成できた」と一安心していた。

最大のヤマ場は4日の予選リーグ第4試合だった。大分との全勝対決は第4単を終えて2―2。勝負は第5単の加藤に託された。

「インハイの時は簡単なミスをしてしまって…。それ以来、普段の練習から落ち着くこと、いつも通りプレーすることを心掛けてきた」。負ければ終わりの震える状況で第1セットを取られても、平常心は乱れない。2～4セットを連取し、4強を決めた。

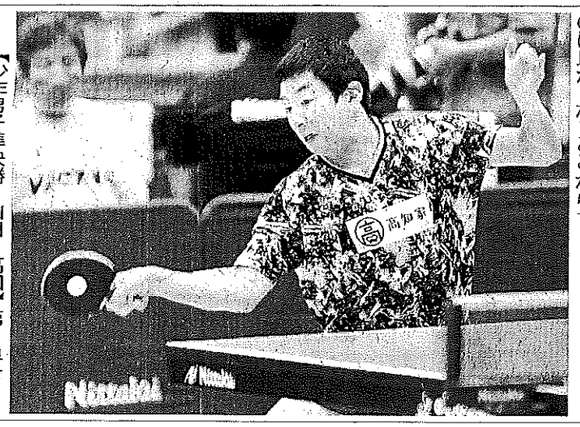
準決勝で唯一ポイントを挙げた3年梅村は「また4強に戻ってこられたのは良かった。ここから上に行くために、格上相手にも揺るがない心を持ってほしい」。後輩に決勝の舞台を託した。

一方の女子は、大阪に2―3と食らいついた。第5単の白山は、インハイのシングルス女王を相手にフルセットの接戦。ただそれでも「相手のちょっとの変化に対応できなかった。勝って、支えてくれる人に感謝を伝えられず、悔しい」。

第3単で、2学年下の妹との対決を制した上沢依も「優勝を目指していたので悔しい。個人的には前日の試合内容が良くなくて、心残りがあります」。第2、第4単で出た青井も「どちらかを取っていれば勝てていた。ラリーで強打ばかりじゃなく、緩急をつけるとか、逆をつくとかを考えられるようにならないと」。それぞれ反省の方が多く口をついた。

10月14日からは全日本卓球選手権大会団体の部に出場する。3人は「国体で出た課題を修正して、次は接戦になっても勝ちきれるように戦いたい」。気持ちはすでに次を向いている。（井上真一）

【少年女子準決勝　大阪―高知】高知の白山が第1単を3―1で制してリードを奪う



【少年男子準決勝　山口―高知】第3単を取った高知の梅村。1―2と追い上げた

"最強"チーム「次は優勝」

成年男子

2大会連続で3位に輝いた成年男子。選手らは「優勝を目指していたので悔しい」と残念そうだし、チャンスもあったのが、県の国体チーム史上最強クラスという前評判にたがわぬ力を見せた。

早大生の浜田は昨季からTリーグ琉球に所属し、通算4勝を挙げている。渡辺は今季から同リーグの埼玉に加入。そしてこの二枚看板に続くのが、2017年の全国高校総体団体で5位に入った明徳のエース西だから、強くないわけがなかった。

準決勝の愛知戦。第1単の浜田がポイントを奪う。第2単は渡辺と篠塚のTリーガー対決。国内トップ基準のラリーで観客の度肝を抜いた。第3単の西も、これまたTリーガーの谷垣を相手にフルセットにもつれ込む接戦を演じた。

愛工大名電高の同窓対決となった第4単の浜田―篠塚は、フルセットの最後でジュースにもつれ込む大接戦。決勝をストレートで制した王者を存分に苦しめた。

前回の3位を知る西も「前の3位は『よく頑張った』という感じだったけど、今回は『もっと上に行けた』と思う」。チームのパワーアップを実感していた。

琉球で東京五輪団体銅メダルの張本らとレギュラーを争う浜田をはじめ、それぞれが高いレベルでトレーニングを積んでいるだけに、来年に期待が懸かる。浜田は「誰がエースでもおかしくないメンバーで、戦っていて心強かった。次は優勝したい」と鹿児島国体を見据えた。（井上真一）

2022.10.6 高知新聞より